



地域の役に立とうと、市内の中学生も積極的にボランティアに参加



災害ボランティアに届いた飲料水。冷蔵庫の「がんばろう!綾部市」に勇気づけられた

企業等から多くの支援物資

活動期間中、関係者を悩ませたのは連日の猛暑です。そ

ボランティアに1685人
被災直後に大きな力となったのが、初めて本格的に開設された綾部市災害ボランティアセンター（以下、災害ボランティアセン。事務局＝市社会福祉協議会）です。泥だしや室内の清掃、片付けなど計41件の支援希望に応えました。市内外から広く受け入れたボランティアには、関東や東北地方など遠方からも参加。7月9日から22日までに延べ1685人が活動しました。

専門分野を生かした支援も

このほか、FMいかるは▽避難情報等の緊急放送▽ドローンによる現地確認▽災害ボランティアのサポートなど情

こで、災害ボランティアはコミュニケーション・ニテイナーズや保健師などで「ボラサボ隊」を結成。活動場所に飲料水を届けて体調管理を呼び掛け、熱中症を防ぎました。

また、これらの活動の支えになったのが、市内立地企業などから届けられた飲料水や栄養ドリンク、タオル等、多くの支援物資です。ご協力いただいた皆さんに、心から感謝申し上げます。

復旧・復興支援(7月受付分) ありがとうございます

《災害ボランティア》	
支援金	7件619,060円
支援物資(飲料水等)	74件
《綾部市に》	
ふるさと納税	64件1,138,651円
寄付金等	25件2,417,802円
支援物資(土のう袋等)	8件

7月6日から昼夜を超えて降る雨は一時とも止むことなく、崩れ落ちる土砂は故郷の美しい山河や里山を無残にも荒らした。自衛隊などの懸命の救出活動にも拘わらず三名の尊い命が奪われ、思わず天を仰いだ。「平成30年7月豪雨」と名付けられた今回の大雨で、本市のみならず西日本各地を濁流が呑み込み、犠牲者は二百名を超えるという。自然相手とは言え、本市は過去5年間で4回もの床上浸水を経験した。地球規模での気候変動を実感すると同時に、「数十年に一度」

雨・雨・雨…



どこではない…天災は忘れなくとも襲ってくる時代に生きていくことを改めて認識させられた。これからも延々と続く復旧作業を思うと気が滅入るが、「市民に寄り添う」のは「今」との思いで、災害対応を最優先施策として市政に邁進する覚悟である。

悲嘆の淵に沈んだ中に一筋の光明を見た。市内外からの数多くのボランティア、そして地域を愛する住民の熱い想いと力である。地元の中高生など若い世代の頑張る姿からは、この難局に立ち向うため湧き起こるようなパワーを授かった。立地企業からの寄付や各団体・住民の地域愛からは、文字通り「オール綾部で頑張ろう!」という気迫を感じとる。これまで記録的な酷暑の中、噴き出す汗を気にもせず励むボランティアの笑顔にふるさととの復興を確信し、復旧に奮い立った。山崎善也（綾部市長）

特集 平成30年7月豪雨災害

市内各所に被害の爪あと

7月7日午前0時35分、本市に大雨特別警報が発表され、4時間でおよそ1か月分の雨量を記録した今回の豪雨。土砂崩れにより3人の命が奪われ、家屋の損壊や床上・床下浸水、道路の寸断など甚大な被害を受けた。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

猛烈な雨で異質の浸水

長時間にわたって前線が停滞し、日本各地に甚大な被害をもたらした今回の豪雨災害。市内でも7月5日の降り始めから7日の降り終わりまでの約3日間に、物部町では42.9mmの雨量を観測。このほか▽十倉中町38.5mm▽湖垣町38.1mm▽於与岐町39.6mm▽篠田町42.0mm▽上野町37.6mm▽小貝町40.8mmなど、市内各地で多くの雨量を記録しました。

特に7日午前1～4時に集中して猛烈な雨が降り、河川の水位が急上昇しました。4、5面に関連記事。物部町などでは犀川が越水したほか、十倉向町では上林川支流の堤防が決壊。近年多かった由良川の水位上昇に伴う内水

被害とは異質の浸水被害が起きました。

被害規模は近年で最大

8月3日現在で、市災害対策本部がまとめた市内の主な被害状況は▽人的被害▽死者3人、負傷者1人▽住家被害▽全壊8棟、半壊4棟、一部損壊13棟、床上浸水54軒、床上浸水240軒▽道路315か所▽河川190か所▽農地・農業用施設732か所など、近年で最大の被害規模となっています。

支援・復旧に13億円

市は7月24日、災害復旧に要する補正予算13億6749万円を専決処分（議決を経ず決めること）しました。

今回は、被災者生活再建支援法や災害救助法の適用によ

り、被災した人に寄り添い、暮らしの再建を支援する事業を手厚く実施します。支援関連の予算は1億5249万円で、主な内容は、全半壊・床上浸水の住宅再建への補助、住宅の全半壊や多くの家財に損害を受けた世帯への3年間無利子の貸付、お知らせ版に関連記事。さらに▽災害見舞金・弔慰金の支給▽全壊した母屋の解体撤去▽被災土砂等の処分▽農業用機械・施設の復旧や被災農作物対策への補助も行います。

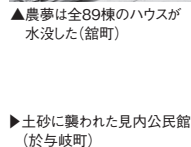
また、道路や農地、公共施設等の復旧への当面の予算として1億4730万円、簡易水道施設の復旧に5000万円、農業集落排水施設の復旧に1770万円を計上。一日も早い災害復旧に努めますので、ご理解をお願いします。



深夜に発生した犀川の越水（物部町）



▲農家は全89棟のハウスが水没した（館町）



▶土砂に覆われた見内公民館（於与岐町）



堤防が決壊で浸水した工場（十倉向町）

■非常時に備え、心がけたいこと

不安を感じれば迷わず避難

今回の豪雨では夜間の大雨予報に基づき、2日続けて暗くなる前に避難所を開設。避難準備・高齢者等避難開始を発令しました＝下表。復旧工事はこれからですが、台風シーズンは続きます。土砂崩れなどへの不安を感じれば、明るいうちに迷わず自主避難。夜間などで避難が危険な状況でも2階やがけから離れた部屋へ移動してください。今回の豪雨でも実際に、これらの行動で難を逃れた人があります。

また、事前にハザードマップを確認し、自宅や避難経路の危険度を調べておきましょう。

非常持ち出し品の例

非常持ち出し品は事前に準備しておきましょう。

非常食

飲料水、缶詰、離乳食、缶切り、栓抜き等。

衣類

下着、靴下、防寒具、雨具、タオル、寝袋、軍手、紙おむつ、予備の眼鏡等。

貴重品

現金、印鑑、通帳、保険証・運転免許証の写し、車や家の合鍵。

医薬品

消毒液、包帯、風邪薬、胃腸薬、マスク、生理用品、介護用品等。

その他

携帯用ラジオ、懐中電灯・電池、ナイフ、ロープ、マッチ・ライター、ろうそく、ビニールシート、ごみ袋、筆記用具等



情報入手の方法は複数確保

市は災害発生時、さまざまな手段で避難情報を発信します。伝達方法はFMいかる、市ホームページ、防災行政無線、Yahoo!防災速報アプリ、エリアメール、メールマガジン（市・組合）、ライブビジョンなど。停電や電波状況などにより、利用できなくなる手段もあるため、複数確保することが大切です。

■災害対策本部の対応

自衛隊の派遣要請

3人が亡くなられた上杉町の土砂崩れによる家屋倒壊。消防本部への通報は7月7日午前4時34分でした。現場へ急行し状況を確認した後、午前5時34分には災害対策本部から府を通じて自衛隊の災害派遣を要請。人命救助を最優先に自衛隊73人、警察72人、消防本部40人、消防団45人が、8日にかけて24時間体制で救助活動しました。



関係機関と緊密に連携

市災害警戒・対策本部には本年度から市職員に加えて関係機関も参画＝写真左。自衛隊、国土交通省、京都府、綾部警察署、市社会福祉協議会、FMいかると緊密に情報共有して警戒や救助、ボランティア活動の支援に取り組みました。復旧に向けた連携は現在も継続。一日も早い復旧・復興に努めますのでご理解をお願いします。

■時間雨量と河川の水位

7月5日から7日の状況と災害対策本部の対応を時間の経過とともに追いました。

